

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100191		
法人名	(株) かいせい		
事業所名	グループホーム かいせい		
所在地	北九州市門司区錦町4番26号		
自己評価作成日	平成27年2月3日	評価結果確定日	平成27年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

開設4年を経過し、利用者の介護度は徐々に悪化しつつあるが、開設当初提案した「閉じ込めない」「1日1回は活気」「何か楽しいこと」「地域との連携」「異年齢交流」へ、取り組みの姿勢は持ち続けている。利用者個々の状況にあった取組を、日々の業務や、年間計画に反映させている。スタッフの質の向上にも取り組み、1年に1度は外部研修への参加を奨励している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成27年2月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「かいせい」は門司の商店街も近く、住宅街の一角にある単独型の2ユニットグループホームである。法人は地域で長く、訪問介護、居宅支援を営んでおり、当施設は代表が4年前に、地域の方が住み慣れた地域で長く暮らし続けられるようにと開設された。4階建てで、2,3階に1ユニットずつ配置され、1階の共有スペースではレクを楽しみ、4階の屋上では菜園を楽しんだり、眺望も良く、海峡火花も見物出来る。「利用者の“こうありたい”」気持ちを地域と共に支えることを理念にあげ、習字やお花、お茶などの様々なレクをボランティアと一緒に楽しみ、菜園でも入居者それぞれのプランターを世話してもらい、出来る事に取り組んでいる。事業所の文化祭開催や、地域の文化祭出展もしており、作品を展示することで刺激やモチベーションにもつながっている。地域交流も積極的で「異年齢交流」として小学校や保育園との交流も定例化し、今後も地域と共に発展していくことが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一人として、運営推進会議やボランティアの方々の支援をいただきながら、出来る限り、さまざまな方々との交流を深めている。	開設時に作られた独自の理念はパンフレットや、お便り、事業所内の各所にも掲げ、日々目につくようにされている。理念にある「利用者のごうありがたい～」を職員も理解し、話し合いで振り返り、地域ボランティア交流も広げている。入職時には施設長から目的や理念についてオリエンテーションもなされ、日頃のレクや地域交流も目的を伝えて職員の意識向上につなげられ、年間計画でも具体的な実践につながるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会、学童保育クラブ、幼稚園など多くの方々との交流の機会を持っている。消防訓練にも地域の皆様の参加をいただき、地域の方がボランティアとして支援をしてくださるなど。協力体制を整えている。	「異年齢交流」として小学校、保育園との交流は積極的で、相互に行き来もなされ、地域ボランティアは毎週何がしかの支援を受けている。傾聴や、レク支援、菜園の世話など支援も幅広く、開設から地域交流は活発である。公民館を借りた事業所の文化祭のほか、地域の文化祭への出展も行い、行事は近所のスーパーに掲示して案内している。日頃も商店街の買い物などで気さくに声を交わしている。	地域への貢献や働きかけとして、近隣他事業所と協力した地域活動の検討や、以前なされていた介護教室や、認知症サポーター養成などの情報発信の取組などが検討されることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	レトロな雰囲気を漂わせる商店街でのお買い物をしたり、文化祭を開催する。ご近所の理美容店を利用し、ご近所づきあいもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの運営推進会議において、ホームにおいて起こる様々な出来事に、アドバイスをいただく。地域包括視線センターのアドバイスにより、事例検討なども行い、質の向上にも取り組んだ。ボランティア制度などの紹介もあり、取り組みをスムーズに行うことができた。	町内会長、校区代表、家族代表、家族代表などが参加し、昨年家族全員に案内も始めているが、こちらはまだ参加には至っていない。毎年の家族会の内容も運営推進会議で報告し、資料の個人名の記載に関して意見から記載方法の見直しをおこなった。困難ケースの対応に関して、相談や事例検討も行い、会議が情報提供やアドバイスの場として活用されている。	参加者の幅を広げたり、日頃の取組を共有するために、行事との同日開催など検討されてはどうか。また、家族への出欠案内を個別に求めていくことで参加を増やされることにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	昨年の外部評価においてアドバイスをいただき、広報誌の発送などを、行っている。人員基準などについても、相談をしたりしアドバイスをいただいた。	昨年系列の居宅と、事業所の広報誌の発行を毎月するようになり、行政や地域包括の担当に郵送している。介護保険や指定申請に関しての相談も行い、困難ケースに関しても地域包括からアドバイスを頂いている。空き情報があった際もお便り配布時に報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットの転落事故に備え、センサーなどを設置する場合などは、事前に検討しご家族への了解をいただき書類に残している。各フロアの階段の施錠はやむを得ず継続している。ADL自立、要介護1の方については、会議を開催申し合わせ事項にサインをいただくなどし、自由に出かけていただく工夫をしている。	1Fの受付に職員がいる際はエントランスを開放しているが、各ユニットの入り口は職員管理により施錠し、エレベーターも管理している。施錠の是非は家族会でも相談し理解を得ている。帰宅願望の強い方には無理に引き止めず、見守りや付き添いで対応し、離設も今はない。夜間のみ四点柵の利用があるが、同意の上、経過観察し毎月見直している。毎年外部研修にも参加し、伝達し、スピーチロックなどもミーティングで注意している。	

H26自己・外部評価表 (GHかいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議や、研修において意識付けをしている。言葉の虐待、無視など、見落としがちな行動にも注意を払えるように工夫している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度、法人として外部講師を招き、研修を行っている。パンフレットなども置き、いつでも活用できるようにしている。	今までもにも制度の利用はなかったが、毎年、法人全体でボランティア講師を招き、制度に関しての研修を受けている。パンフレットなども準備しており、1Fにおいて家族にも自由に配布している。職員も基本的な制度理解を進め、必要なときの相談体制もとられている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時において、パンフレット、重要事項説明書、北九州市既定の契約書で、丁寧な説明を心掛けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見箱の設置をし、ご家族の意向の把握に努めたり、利用者の何気ない言葉をとらえ、日誌に記録したりし回覧したり、その他記録にし保管している。年に1度家族会を開催し、生の声を把握し記録としてフィードバックしている。	以前は独自アンケートの配布もしており、家族会は毎年開催し、それ以外にも文化祭や夏祭りなどで家族参加行事を企画している。家族の出席も多く、年間レクの要望や職員不在時の玄関施錠に関しての意見もあがり話し合われている。家族会の議事録は全員に配布し、毎月発行のおたより「ある日ある時」には個別の筆報告も添えて、担当者からの状況報告に役立てている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個別面談を行い、意向を確認しているが、どこまで本音を言っていたかについては疑問の残るところである。	事業所の全体会議が毎月あり、同日のユニットのミーティングも合わせ、基本的にはパート職員も含め全員が参加している。毎月のレクの反省を担当者から挙げたり、ケアの方法、備品の要望など提案し、反映されている。普段からもコミュニケーションがよくとられ、言いたいことを言い合って改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間については、所定の時間外については、手当をきちんとつけるようにしている。ただ、この4年昇給をしてあげられていないこと、賞与が十分にだせてあげられていないことは現実として、モチベーションの低下につながっているかと思う。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女の差別、国籍の差別、年齢の差別なく能力さえあれば、できるだけ雇用している。休日の希望を取り入れたシフトづくり、不幸ごとや体調不良時にも、安心して休めるよう、他のスタッフの協力のもと体制を整えている。	20～0歳代まで職員の幅も広く、国籍の違う職員も含め能力や意欲を見て平等に採用されている。シフトもお互いに協力しながら調整し、休憩場所や、場所の確保もされている。音楽療法の出来る職員や、手先が器用な職員など活躍の場を持ち、スキルアップの為介護技術のチェックもされている。外部研修の案内や参加もされ、昨年から積極的に取り組んでいる。	

H26自己・外部評価表 (GHかいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	さまざまなマニュアルを、休憩室に置き、いつでも振り返りができるようにしている。外部研修にも出席できるよう研鑽の場を設定している。	毎年法務局の権利擁護委員に外部講師として来てもらって研修をしており、制度の内容以外にも差別や人権擁護に関して話されている。市などが行う外部研修にも毎月参加し、内部での伝達も行っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別面談時の本人の希望の確認を行い、研修に出られるようにしている。介護技術確認シートにおいて個別に確認するようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回、地域のグループホームとの連絡会を通し、情報交換や意見交換をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みに対し、本人の面接アセスメントを通し、個別の課題やその解決にあたってのスタッフの介護力の確認、注意すべきことなどの確認を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメント、意向の確認、不安の把握を行っている。訪問時適切な声掛けができるよう、フローアでの取組も行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで把握した情報をもとに、計画作成担当者を中心に、計画を立て、各スタッフへも周知している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おひとりおひとりのアセスメントを深め、出来ること出来ないことを把握しながら、生活の必要な場面場面で、本人の力が発揮できるようにしている。できないことを無理強いにならないようにしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌の発送、その月の状況の報告を行っている。たくさんの方が気軽に訪問できる環境を整えるようにしている。夏祭り、文化祭など家族が参加できる場を工夫している。		

H26自己・外部評価表 (GHかいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利便性の良い立地条件を生かし、訪問者も多い。散歩に出た市場でも、昔の友人に声を掛けられたりと、思いがけない出会いもあり、良い刺激になっている。元気なころ利用していた美容室に行くなど、交流は続いている。	入居者には地域の方も多く、近隣の知り合いなどの来訪も多い。行き慣れた市場での買い物で知人に会ったり、馴染みの美容室に行く方も何名かおり、個別ケアでの対応をすることもある。一時帰宅などは家族にも協力してもらうが、負担も考えながら行事案内などと絡めて、家族来訪のきっかけにもしている。文化祭の展示など、可能な方とは協力して行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の力関係が著明になり、支配関係が見られたり、陰口を言うようになってきた。それがスタッフ間にも悪影響を及ぼす様になってきた。事例検討会を開催し、スタッフ自身が巻き込まれないような工夫をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去、またご自宅へ復帰の方など、広報誌を送付するなど工夫をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の何気ない一言、不穏な動きを見逃さず、アセスメントをしプランに反映させるよう工夫している。	不穏が続く方に、センター方式の一部を活用して、24時間の生活リズムの把握を昨年から始め、生活を記録することで、生活の流れを見ながら把握できるようになった。基本情報は入居時、介護更新時に行い、ケアチェックを半年でも行っている。基本は計画作成担当者が関わるが毎月のユニット会議で職員からの現場の情報も共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントに基づき、本人の好みや習慣などが、継続できるよう、工夫している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	さいわい、様々なボランティアの方が、ご協力くださり、変化ある毎月のスケジュールになっている。無理な参加ではなく、体調に合わせて自由に参加していただいたり、個別の参加などの工夫もしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況の変化時や更新時、その他必要時、医療からの視点も入れ、担当者会議を開催し計画書の作成、サービスの実施に取り組んでいる。	入居者毎のおたより報告などを担当職員にわけて受け持ってもらい、毎日のプラン実施モニタリングによって目標の共有、日々の実施につなげている。モニタリングは毎月、プランの見直しは変化があった際や半年の定期で行っている。担当者会議時には家族、関係者にも参加してもらい、看護師からの看護計画も立てられ、看護記録とともに管理される。毎月、全員分のカンファレンスを行うことで、情報共有につなげている。	担当制をさらに活用し、職員のレベルアップにつなげるために、職員にもモニタリングや素案の作成など、関わりを深めていってはどうだろうか。

H26自己・外部評価表 (GHかいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の清潔の様子や、病状の変化時など記録し、申し送りをとおし、状況の共有に努めている。必要時にはカンファレンスを適時行いプランに反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年間行事としてのレクリエーションの企画、集団レクの実施、家族を巻き込んだ行事などを企画運営するなど家族会に協力を頂きながら楽しい時間の提供を工夫している。予定にない事でも、状況に応じドライブや買い物などの機会も作っている。		
31		○地域資源との協働 tii	近隣の幼稚園、学童保育との交流に積極的に取り組み、相談員の訪問、ボランティアの方々の支援などを受け、いろいろな風を吹かせている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力医の往診ではあるが、今までかかっていた医療機関に継続して受診したいとの意向時は、往診の依頼や、受診の動向など随時行っている。	希望があれば外部のかかりつけ医を継続でき、提携医利用の際は2週に1回の往診が受けられる。医師の訪問機会も多く、何かあった時の健康相談も直ぐにできている。外部のかかりつけ医でも通院介助をすることが多く、日報によって情報は共有している。主に看護師が医師とのやりとりをして連携をとっており、薬剤師に寄る服薬管理も2週ごとにされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は隔日勤務であるが、日々の日誌、看護師ノートなどで、必要な連携を取る。急な要件は電話で指示を得るなどする。職員は看護計画書を理解し、病状の変化時の対応を確認する。毎週水曜日協力医往診医などとFAXなどで状況の報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良時は協力医の診断、必要時入院となる。入院に関しては、協力医から紹介状が届けられる。入院時には必要な情報を提供する。(医療情報を含む基本情報)		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時には看取りや終末期ケアの対応を説明する。「その時」の意向の確認を行い、段階的に取り組んでいる。3月には、家族・スタッフ・近隣を巻き込んだ「看取りについて」という勉強会を、外部講師を招いて計画中である。	同意書があり、家族と話し合っ対応を相談し、実際の対応時には個別の情報を考慮している。今までに看取った事例はないが、今後支援を検討される方もおり、医師を交えて話し合っている。直近で訪問看護からの勉強会も計画しており、提携医も協力的で、夜間や緊急時も電話だけでなく訪問診療によって対応してくれた。希望されれば出来る限りの事を支援していく方針である。	

H26自己・外部評価表 (GHかいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応について、マニュアルを作成し、また日々確認できるよう目につくところへ設置している。救命救急研修にも参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力の素避難訓練を、年2回開催している。訓練には、町内会、自治会長などの参加も得ながら、夜間を想定した訓練も行っている。非常食、水、カセットコンロ、ボンベ、非常用トイレを準備している。	2回とも消防署が立ち会っており夜間想定、日中想定を1回ずつ行う。町内会、自治会や近隣の方の参加も基本的には毎回有り、訓練時には避難装置などを実際に使用し、担当も変えて取り組んでいる。緊急時には地域の方にも連絡が行くようになっており、協力体制を強固に作り、非常時に備えている。備蓄物も1週間分を目安に用意されていた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を通し、自身を振り返る機会が持てるようにしている。また実際の苦情の記録を回覧し、スタッフ研修で振り返り、自分の事としてとらえる事を大切にしている。	接遇などの外部研修には毎年参加し、ない時も外部講師を招いて法人全体で学習を進めている。言葉遣いなどに関して意見を頂いた時も全体で共有し対応を話し合っている。本人や家族の意見を尊重し、入浴に同性介助の希望があるときも対応している。写真利用含めて、個人情報の利用にも事前に同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	場面場面で、医師の確認を行うようにしている。その方らしい1日が送れるよう、個別性のある場面の提供を心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるものの、状況に応じて、個々のペースに合ったケアを実践している。(自由な外出等)		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室には、持参した化粧品などがあり、自身で身だしなみが整えられるようにしている。マニキュアをする習慣がある方はスタッフが気をつけて綺麗にしている。理美容も記録をし適宜行けるように工夫している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じてお盆拭きや、配膳下膳などに参加していただいている。お米は宇佐の山奥の農家より直接購入し美味しいお米を提供している。お借りしている畑で出来たお芋や、頂いた渋柿でつくった干し柿を利用したおやつ作りなど工夫をしている。	米のみ炊飯するが、メニューや食材は業者から調理済みの状態で配達され、栄養バランスなどに配慮され、食事の難しい方もゼリー食の提供で快方したこともあった。、おやつレクで調理する機会や日頃出来る事をしてもらっている。弁当配達、仕出しや外食レクの機会ももたれる。検食も隔日であるが、普段は職員は別で各自の食事をしている。	入居者から食べたいものなどの要望をアンケートなどで聞かれてみてはどうだろうか。また、職員と入居者が一緒に食べる機会も検討して、食事がさらに和やかで楽しい物になるような取組にも期待したい。

H26自己・外部評価表 (GHかいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	半調理済みの給食サービスを利用しバランスの良い食事を提供している。摂取量、水分量、を記録し、体重の増減にも配慮している。必要時にはかかりつけ医に相談をしている。嚥下状態に応じて、食の形態にも配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの誘導実施を行っている。義歯の洗浄保管、ケア用品も不潔にならないように保管している。利用者の状況に応じたケア用品を利用している。定期的な歯科医師の訪問もあり、誤嚥性肺炎にも配慮している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握してできるだけトイレで排泄できるよう誘導している。尿路感染症や膀胱炎などにも配慮し、医師の指導のもと、採尿や尿の状況の報告も行っている。	ユニットの入居者毎の排泄チェック表があり、声掛けの結果なども含めてチェックするようにしている。自力排泄を基本に、日中はトイレ、夜間はポータブルトイレも活用しながら介助を行う。尿便意の曖昧だった方も声掛けによって訴えが出るようになった。適切なパットの利用なども日々の申し送りで話し合って提案し、便秘対応もチェック漏れのないように看護師に伝えている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の有無、形状の把握をしている。便秘傾向であり、本人の不快感や体調の変化など必要に応じて介護士→看護師→医師への連携を行い、必要な対応がとれるようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別チェック表で、平等な入浴の機会が持てるよう工夫している。ADLの低下に伴い、1人対応での入浴が困難になった場合でも、2人対応、医療配慮が必要な場合には、看護師対応ができるよう柔軟に対応している。不潔時にはその都度対応ができるようにしている。	広めのユニットバスで浴槽は2方向介助、手すりの設置も多い。基本的には週2,3回、昼から夕方前までの対応で、場合によっては午前にも対応し、順番に考慮して希望も聞いている。皮膚観察の必要な時などは看護師対応することもある。拒まれた際は声掛けや時間を変えて対応し、入浴剤や季節の行事浴などで楽しみのおも作っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やホールソファで休息ができるようにしている。室温湿度、採光に配慮し室内環境を整えている。寝具の交換も記録により定期的に清潔なものに取り替えられている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師管理の下、服薬確認を行って誤薬や服薬漏れが無いかに注意している。退院時等薬に変更があった場合は、申し送りを徹底している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできる事、したいことに取り組めるようにしている。ただいつでもというわけにはいかず、年間計画に盛り込んだり、時間の許す限り要望に応えたい。		



H26自己・外部評価表 (GHかいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出レクを年間計画に取入れ、具体的な企画運営を行っている。フラット、「行こう」とドライブに出かけたりする。ご家族、ご本人の意向で、単独での外出にもリスクに配慮しながら取り組んでいる。	月ごとに入居者それぞれの外出回数を記録して、全員が偏りのないよう外出できるよう働きかけている。外出行事としては菖蒲見物、花見、トロッコ列車など季節折々の企画を催している。本人だけの外出などの要望にもリスクを排除して対応し、個別ケアで支援することもあり臨機応変にしている。車いすの方や意欲低下が見られる方にも同じよう外出を楽しんでもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームが預り金としてお預かりしている中、外出時、散歩時、又は目的のある買い物として使っていただいている。おひとり、自身でお金を持ち、自由に使われてる。預り金の収支については、毎月、ご家族へ報告している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は取次ぎ、かけたいと言われる電話は、おかけ頂いている。ホームに届くお手紙はご自身またはご家族へ、季節のお手紙などはお預かりしてポストインしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1Fフロアーには、毎月の行事の写真作品を展示し、来館者の皆さんに見て頂くようにしている。各フロアー、自室には自身の作品を飾るなどしている。毎日の清掃、臭いへの配慮など、五感を生かし清潔な環境づくりに取り組んでいる。	エレベーターを降りてすぐが、ホールになっており、カウンターキッチンも横で見守りやすい。居室とは廊下でつながり、行事の写真などが飾られている。エレベーター内にも職員の自己紹介や、ボランティアの方に頂いた切り絵の似顔絵が飾られ、来訪者を出迎えている。屋上にも直接出られ、気候の良い時期には花火見学や日光浴などを楽しんでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	開設5年を迎え、長く入居の方の身体的、肉体的低下は否めない。長くなれば関係性も微妙に変化して来ている。個々の利用者が安心して楽しく過ごせる空間づくりをしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその方のおうち、安心して、ゆっくり誰からも邪魔されず、また孤独感にも陥らないよう配慮している。室内環境の清潔にも配慮している。必要時にはナースコールを押し頂けるようにしている。	各居室の入り口には、レトロな色合いのステンドグラスライトと、木製の表札が飾られ、懐かしい雰囲気を感じられる。窓からの眺めも良く、介護ベッドやクローゼット、ポータブルトイレは事業所によって準備される。入居者はそれぞれ、使い慣れた木製たんすや、テレビなどを持ち込んだり、仏壇のお世話などもして、部屋でもゆったりと寛いでいた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にはそれぞれの利用者ごと、ステンドグラスを飾り、視覚的にも穏やかな雰囲気を作り、自分の部屋が解るようにしている。手すりも各所に設置され、安全にできるよう支援している。		